

岬と半島の旅

平成 30 年 10 月

沼尾 利郎

1 佐田岬（四国・愛媛県）



佐田岬（四国の最西端）



佐田岬灯台（日本の灯台 50 選）

学生時代から岬や半島が好きでした。特に理由はないのですが、単に「人があまり行かないような場所へ行ってみたい」というだけなので、“秘境マニア”とか“秘境オタク”というわけではありません。「岬の旅」というと今でも思い出すのが、学生時代に四国を1人旅した時に行った四国の最西端「佐田（さだ）岬」です。よく似た名前に「佐多（さた）岬」がありますがこちらは九州本島の最南端であり、鹿児島県の大隅半島にあります。私が佐田岬の名前を知ったのは「陸の孤島・佐田岬」という紀行文を教科書で読んだのがきっかけであり、その独特の地形（日本一細長い半島）に興味を持ち不便な路線バスを乗り継いでやっとたどり着きました（1979年）。岬の先端には灯台があるだけで本当に何もなかったのですが、閑散として人の気配が全く感じられないところが期待通りでとても満足でした（やはりオタクかも？）。佐田岬は「日本の秘境百選」の1つで佐田岬灯台も「日本の灯台 50 選」に選ばれており（国の登録有形文化財）、今では絶景ポイントやパワースポットも多い人気観光地と

して整備されているようです。あれから 40 年近く経つのですから、何でも変わるはずですね。

2 キーウェスト（アメリカ・フロリダ半島）



セブンマイルブリッジ



ヘミングウェイの家



メキシコ湾の夕陽

米国へ留学していた 1990 年にクリスマス休暇を利用して家族で出かけたのが、フロリダのキーウェストでした。マイアミ空港からレンタカーで約 4 時間半の距離にあるキーウェストは米国本土の最南端にあり、メキシコ湾と大西洋を結ぶフロリダ海峡のほぼ中央に位置しています。19 世紀初頭までスペインの統治下でありキューバの影響を強く受けた街並みには独特の雰囲気があり、世界的に人気のある観光地の 1 つです。セブンマイルブリッジはオーバ

ーシーズハイウェイ（海上の高速道路）としてハリウッド映画やCMなどにもたびたび登場する有名スポットであり、まさしく海の上を走っているような爽快感が味わえました。一方、キーウエストにはあのヘミングウェイが暮らした旧宅が残されており、スペインコロニアル風の邸宅には彼の愛した猫たちの子孫がのびのびと暮らしていました。ここの猫たちは6本指を持つものがたくさんおり、船乗りたちの間では幸運のシンボル（ラッキー・キャット）として大事にされていたそうですが、残念ながら6本指の猫を見つけることはできませんでした。私たちが当時住んでいた米国中西部から来ると南国感あふれるフロリダは全くの別世界であり、温暖な気候で開放的なこの地がリタイアした米国人に人気があるのもよくわかる気がしました。

3 スコトン岬（北海道・礼文島）



スコトン岬



スコトン岬

研修医2年目の1983年に北海道出身の友人と歩いた日本最北の島・礼文島も、思い出深い土地です。礼文島は別名「花の浮島」とも呼ばれ、北緯45度付近という立地により海拔ゼロメートルから高山植物が咲くという、この島独特の植生が見られます。礼文島には「愛とロマンの8時間コース」という（一部の人には）有名なトレッキングコースがあり、島の最北端のスコトン岬から南の礼文林道まで約30kmのコースは、島内にある超人気ユースホテルの

「桃岩荘」が開拓したと言われています。コースの名前の由来は「はじめは顔も名前も知らない旅人同士が共に歩いているうちに友情が芽生え、愛が生まれてロマンに発展する」ことから名付けられたそうです。私たちは島の西海岸沿いに断崖絶壁の急斜面や笹の原生林、海を望む丘の上のお花畑など変化に富んだコースを歩きましたが、さすがに 8 時間はきつかったですね。しかしコース途中で出会った様々な人たちとの交流や北の島への旅を通じて、貴重な経験をすることができました。それはつまり、「旅の楽しみは目的地に着くことではなく、たどりつくまでの道のりにこそ喜びがある」ことを実感した旅でもありました。